'I' Novel

RADWIMPS

ずいぶん長らく歩いてきたような そんな気がしていただけなんだ
小説にしたらせいぜい まだ三行目あたりのこの人生

カバーもまだ 題名もまだ 決まらずに書き始めちゃったから
どこでどうしてどうなってって順序よく 収まりつかないや

今日はただただもう さぁダラダラしようと 物思いにふけてても
早くも僕の胸はもぞもぞと動きだす だって

心臓は脈打ち 何ccかの血を全身へと送りだしを繰り返し
今日も休まず僕は僕を生かし

辻褄あわぬストーリーに ほろ苦い顔で見るストーリー
誇れるほどのものはまだないが 僕だけに光るものはあんだ

塗りつぶしたい？ 破り捨てたい？ 過去があろうとも汚れのない
物語など僕は惹かれない あぁ 一瞬先の自分さえ

もう待てないよ 今すぐでも会いたいよ
うかうかしてらんないの

はみ出した君の痛みが 壊れないようにと涙した
ひょっとしたら もしかしたら それはいつかのあの僕だった

輝いた朝の光が 水たまりを蹴って飛び散った
あのどれかが今の君なら いいな いいな

どっかの誰かが勝手に君のことを あーとかこーとか言ったり
いつのまにか 君のブックの表紙に名前 勝手につけて

頭きたよ 頭悪いけど あんたに言われる筋合いはねぇから
とっといなくなっとくれ これ電車賃 受け取っとくれ

どうにもこうにもいかない時でも どうにかこうにか
ここまできたんだよ 今自信を持って言えるのは

僕を乗りこなせんのは こいつの勝手がそうわかんのは
他にゃいないんだ このおいらにゃこのポンコツくらいが丁度いいんだ

でもあわよくば まぁいつの日か この僕のこと この僕よりも
より分かって笑ってくれる人と 出逢えるといいな なんて

その時まで待てないよ 今すぐ抱きしめたいよ
この手で温めたいよ

飛び出した白い光が 奇跡と合わさって芽を出した
それが僕なら いいさそれなら いっそ奇跡使い果たすんだ

溢れ出した君の涙が 無駄にならぬようにと駆け出した
それを見た僕が胸に抱く気持ち なんて美しいんだ

1秒先で輝いて 見えるものだけ追いかけて
「間違いなんてないんだから」 そんな言葉を真に受けて

ゼロで生まれた僕なのに 今名前を呼ぶ人がいて
当たり前などない脳に 産み落としてくれて ありがとう

例え１ページで終わる命も　１０００ページに及ぶ命も
比べられるようなもんではない 同じ輝きを放つに違いない

あいまい 何の気ない 言葉延々紡ぐ暇などない
１ページを生きた少年の 本には誰よりも光る一行が

綴られているんだ そう信じてやまないんだ
もうジタバタしてたいんだ

僕もどれだけ遺せんだ ねぇどれだけ生きれんだ
時間以外の単位で

はみ出した君の痛みが 壊れないようにと涙した
ひょっとしたら もしかしたら 君の優しさの影だった

輝いた朝の光が 水たまりを蹴って飛び散った
あのどれかが今の君なら いいな いいな いいな

Tištěno z pisnicky-akordy.cz
Sponzor: www.srovnavac.cz - vyberte si pojištění online!